



## 『口呼吸と病巣炎症』 ～あいうべ体操と全身疾患の関係～

みらいクリニック 今井一彰

慢性病巣疾患 (chronic focal disease) は、生体にとっては小さなストレスではあるが、慢性化すると免疫異常を惹き起こす要因となる。今回は、体の入り口である、口腔・鼻腔の病巣炎症と全身病との関連を中心に述べる。

Billings が、扁桃と歯牙口腔が、病巣感染症 (focal infection) として 90% を占めるとしたのが 20 世紀初頭であった。それから 100 年が経ち、当時はなかった免疫学を基礎として、病巣感染の考えが再興してきている。特に歯周病に関しては、近年関節リウマチとの関連がクローズアップされるなど、口腔内病変と全身病との関わりはこれからますます明らかになってくるであろう。

医科歯科連携が言われて久しいが、それを繋ぐ糊は、歯性病巣疾患であると考えられる。根尖病巣、歯髄炎、歯周病など、慢性炎症をコントロールしていくことが、全身病のコントロールにつながって行くと考えられる。そのためにも、医科歯科共同で、疾病に立ち向かっていくという体制作りは急務である。その受け皿として、日本病巣疾患研究会を立ち上げ、医師・歯科医師がともに研鑽し合いながら情報を交換できる場をつくった。

また、疾病の入り口としての口呼吸、舌低位に対して、当院では「あいうべ体操 (簡易筋機能訓練法)」を患者指導に取り入れて、効果を上げている。それらの症例も供覧する。口呼吸によって惹き起こされるのは、生体の機能的、形態的障害がある。もちろんこれらは、歯列不正や咬合異常にもつながる大きな問題であるが、どの科で指導するのか曖昧になっていることも多く、口呼吸や舌位置を是正しないまま、矯正治療を施される症例も散見される。口は命の入り口であることを、今一度、ともに確認する場になれば幸いである。

もう一つの、大きな病巣である鼻においては、上咽頭炎 (鼻咽腔炎) が鍵となる。上咽頭は、ワルダイエルのリンパ輪としては認識されていないが、興味深い組織である。当院では、上咽頭擦過治療を行っているが、こちらは、歯科治療に比してそれほどの時間、費用を要しないために、患者の取り組みも容易である。歯科医院でも可能な方法を提示する。